会誌編集委員会

Number 24

女子部

会誌の役割

東京女子大学　加藤 由花

今年（2016 年）の全国大会は，3 月 10 日～ 12 日に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催されました．我々会誌編集委員会は，その中のイベント企画として，昨年（2015 年）に引き続き，会誌「情報処理」公開編集委員会を行いました．今年は「ヘンな論文」の著者であるサンキュータツオさんをお迎えし編集長との対談を行ったり[☆1]，会場の参加者を交えて会誌連載漫画「IT 日和」のネタ出しを行ったりと，盛りだくさんなイベントになりました．

私たちがこのようなイベントを継続して行っている理由は 2 つあると考えています．1 つは，会誌ができあがるまでの舞台裏を読者の皆さまに知ってもらいつつ，読者から会誌への要望を直接伝えてもらう場を作り上げていくということ．そしてもう 1 つは，今後の会誌「情報処理」の方向性，ひいては情報処理分野の方向性や学会の果たすべき役割などを考えていく場にするということです．前者は誌面の内容に直接反映させることができて分かりやすいのですが，後者はちょっと話が大きすぎるのでは？と思われるかもしれません．しかし，会誌って何だろう？学会って何だろう？と考えていくと，「開かれた編集委員会」の持つ意義が実感できるように思うのです．

そもそも，会誌の役割（目的）って何でしょう？学会の原稿執筆案内には以下のように記されています．（1）会員の知識の向上に資すること，（2）本学会の活動を報告し，会員各位の学会活動への参画意識を高めること，（3）会員の意見発表，討論，情報交換の場を提供すること，（4）学会の行事，ニュース，各種情報の要約等を提供すること．会誌を作る側も，読む側も，特集記事や解説など，会員の知識の向上に資する記事を掲載するということに注力しがちですが，会誌には本来，会員の学会活動への参画意識を高める，意見発表や討論の場を提供するというコミュニティ形成の部分にも大きな役割があるのです．これは，学会が，研究者・技術者の自主的な集まりであり，研究者・技術者自身の運営によるコミュニティ活動にほかならないためです（日本学術会議による学協会の定義より）．実際，各学会の会誌を眺めてみると，学会に所属する人々のカラーが反映されているように見え，興味深く思います．

私たちが，多くの会員の皆さまに「読まれる会誌」を目指して編集を行っている理由はここにあります．商業誌のように単に役立つ知識を伝授するだけでなく，学会活動への参画意識を高める，会員相互の交流の場になるために会誌はどうあるべきか，開かれた編集委員会の場はそれを考える 1 つの機会になっていると感じています．

（余談ですが，この女子部コラムも，読者モニタからは「女性に注力する意義が感じられない」等，厳しい意見をいただくことも多々ありますが，まだまだマイノリティである女性会員のビジビリティを高め，さまざまな立場からの意見発表の場として活用していくことは，情報処理コミュニティにとって意義深いものであると考えています．今後も賛否両論，ご意見お寄せください）．

☆1 サンキュータツオさんの巻頭コラムが，4 月号に掲載されています．全国大会でのイベントはこのコラムとの連動企画です．芸人であるタツオさんのお話は非常に面白く，会場は大いに盛り上がりました．対談の様子は後日会誌内で報告予定です．お楽しみに！